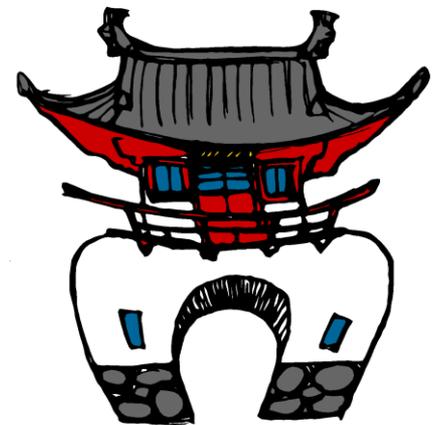


武雄市人口ビジョン



平成27年9月策定

武雄市人口ビジョンポイント

1. 総人口、年齢3区分別人口の推移と将来推計

人口は1950年をピークに減少傾向。30年後に4万人を割り込む。

2. 出生数、死亡数の推移

2003年以降、死亡数が出生数を上回る「自然減」の状態が続く。

3. 転入数、転出数の推移

転出数が転入数を上回る「社会減」が概ね続いている。

4. 年齢階級別の人口移動の最近の状況

高校卒業時に「転出超過」のピークを迎える。

5. 将来人口における自然増減の影響度、社会増減の影響度

「自然増減」と「社会増減」の施策をバランスよく展開する必要がある。

6. 将来人口の目標

2060年人口4万人の維持を目指す。

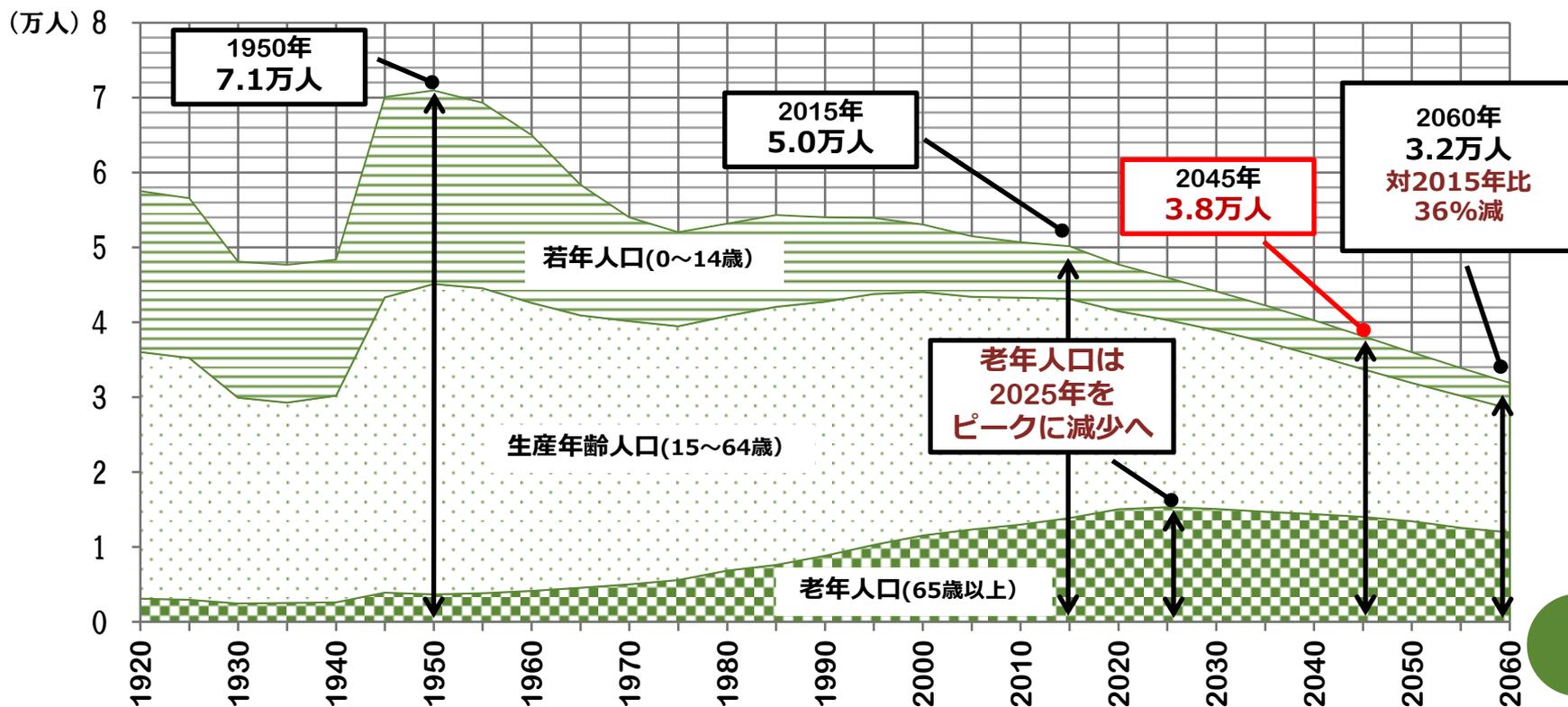


1. 総人口、年齢3区分別人口の推移と将来推計

人口は1950年をピークに減少傾向。30年後に4万人を割り込む。

○1950(S25)年に約7.1万人とピークを迎えた。以降、昭和50年代（1975～1984）に一時的に増加するが、全体としては、現在まで減少傾向が続いており、今後も減少の見込みである。

○現在、若年人口と生産年齢人口とも減少している一方、老年人口は増え続けてきており、少子高齢化と人口減少が同時に進行している。老年人口も2025(H37)年には減少に転じ、その後本格的な人口減少時代を迎える見込みである。



(出典) 「国勢調査(1920(大正9年)～2005(平成17年))」(総務省)、2015年は住民基本台帳データ(2015.2.28時点)による

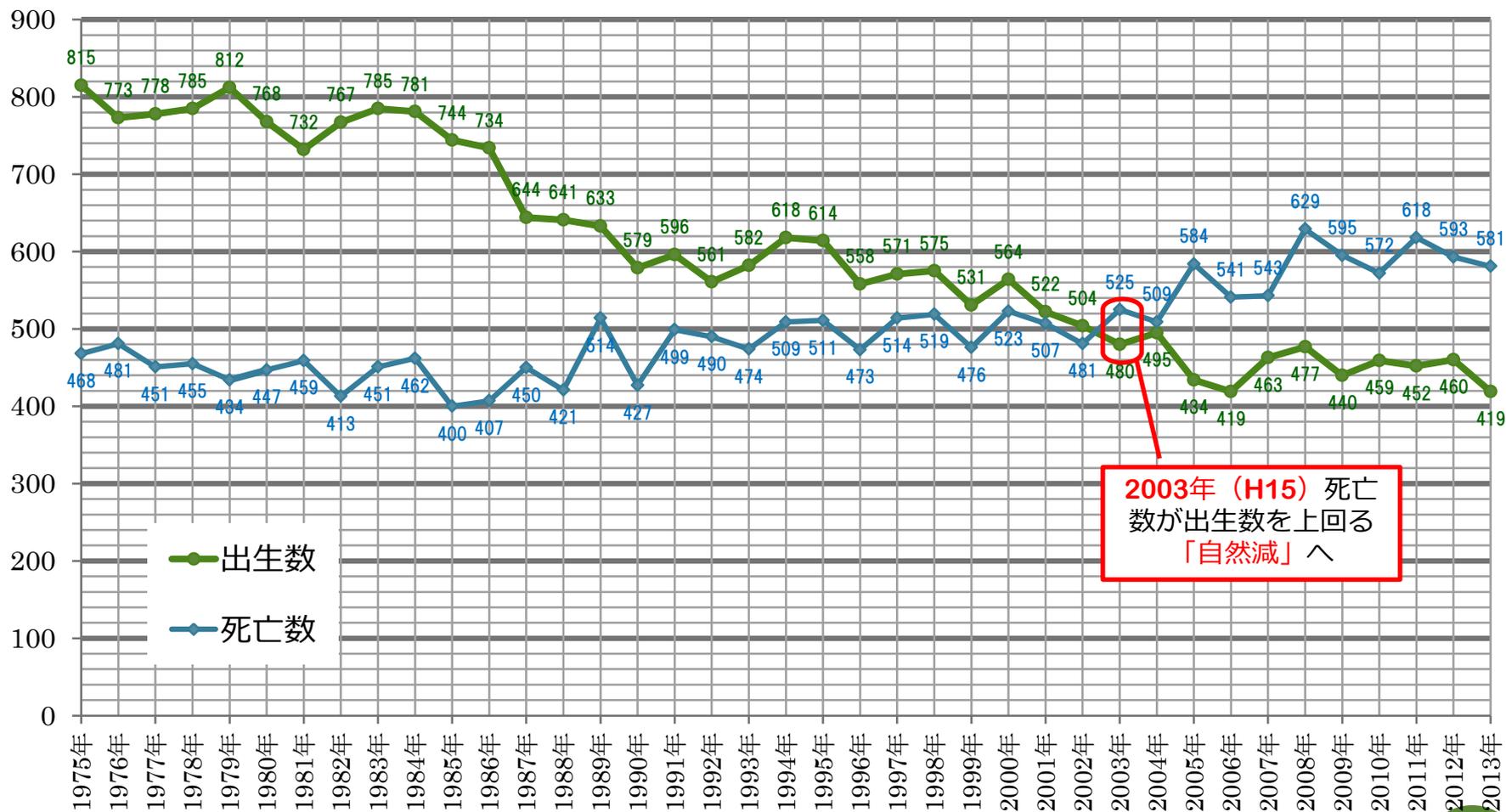
(注) 2020年以降は国提供データ(パターン1国立社会保障・人口問題研究所推計準拠)から計上

※パターン1:全国の移動率が、今後一定程度縮小すると仮定した推計(社人研推計準拠)

☆

2. 出生数、死亡数の推移

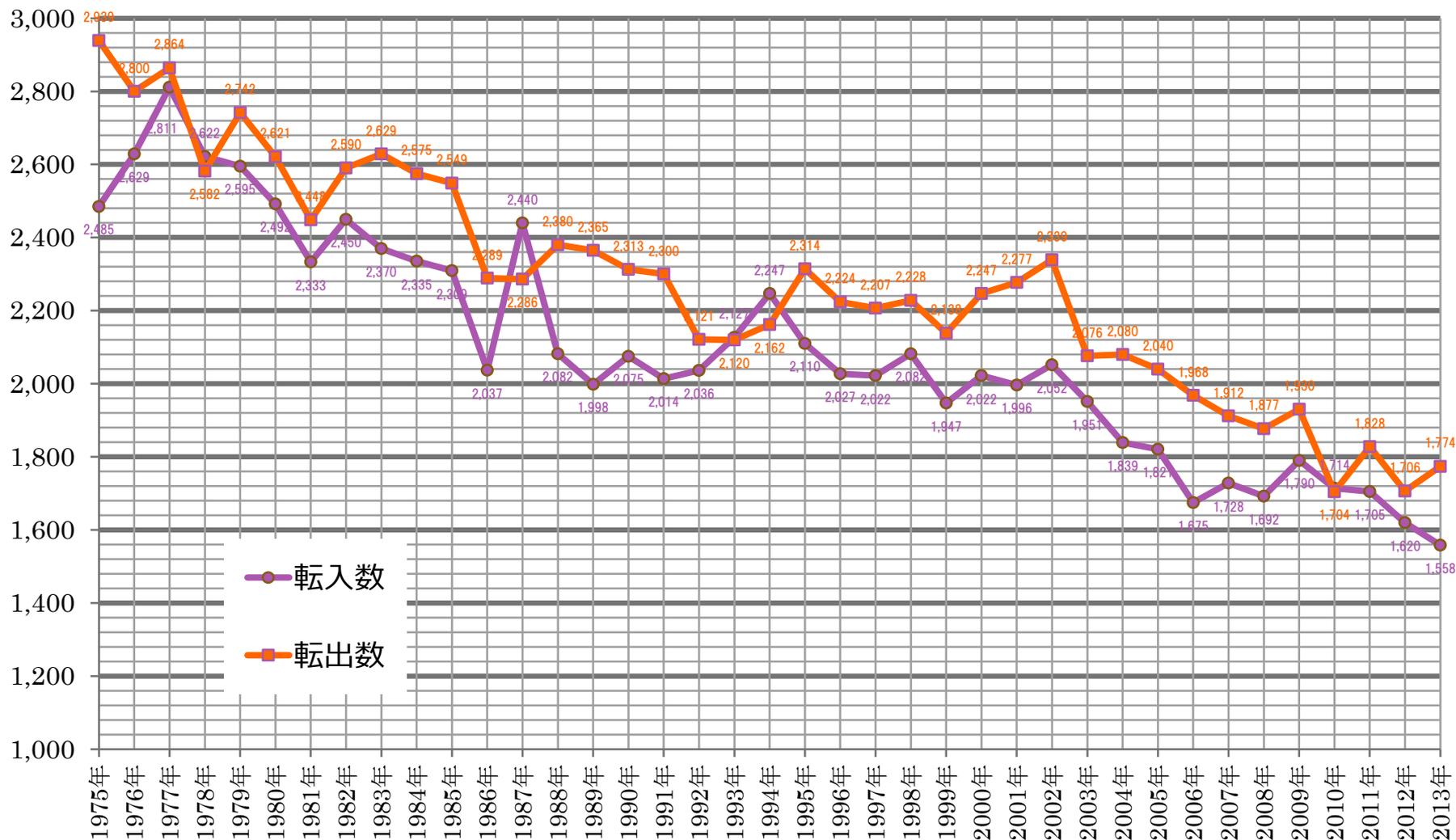
2003年以降、死亡数が出生数を上回る「自然減」の状態が続く。



(出典) 「佐賀県統計年鑑」(佐賀県)を基に武雄市作成

3. 転入数、転出数の推移

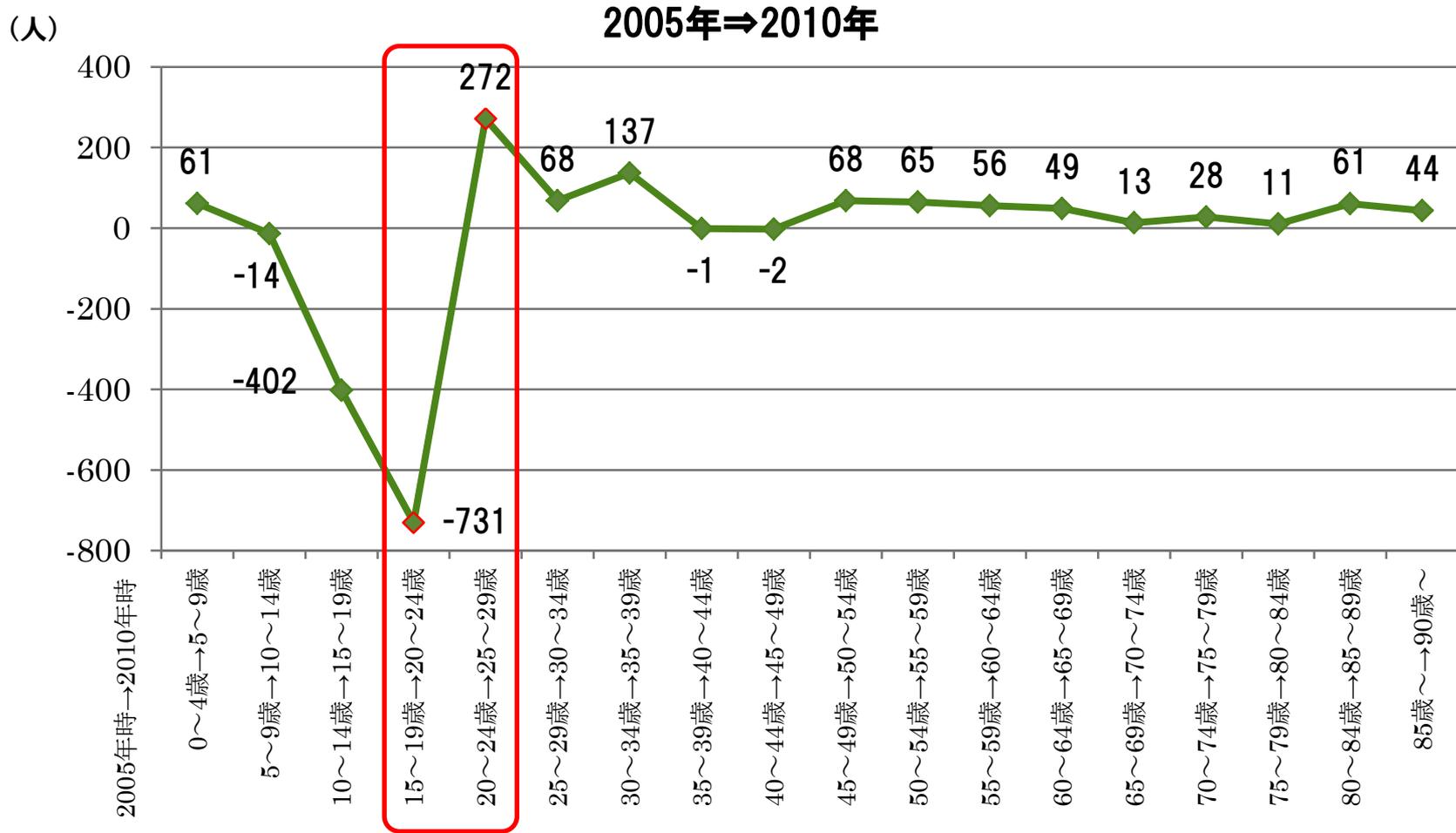
転出数が転入数を上回る「社会減」が概ね続いている。



(出典) 「佐賀県統計年鑑」(佐賀県)を基に武雄市作成

4. 年齢階級別の人口移動の最近の状況 高校卒業時に「転出超過」のピークを迎える。

○高校卒業後に「転出超過」し、大学卒業後の就職等で「転入超過」となるが、**高校卒業後の転出数の1/3程度の転入数**にとどまり、社会減が進んでいる。



(出典) 内閣府地方創生本部提供資料を基に武雄市作成

5. 将来人口における自然増減の影響度、社会増減の影響度

「自然増減」と「社会増減」の施策を総合的・一体的に展開する必要がある。

		自然増減の影響度(2040)					総計
		1	2	3	4	5	
社会増減の影響(2040)	1		鳥栖市、吉野ヶ里町	江北町			3
	2		伊万里市、 武雄市 神崎市、上峰町 有田町	佐賀市、小城市、 みやき町			8
	3			唐津市、多久市、 鹿島市、嬉野市、 大町町、白石町、	基山町		7
	4			玄海町、太良町			2
	5						0
	総計	0	7	12	1	0	20

影響度…5段階で評価。

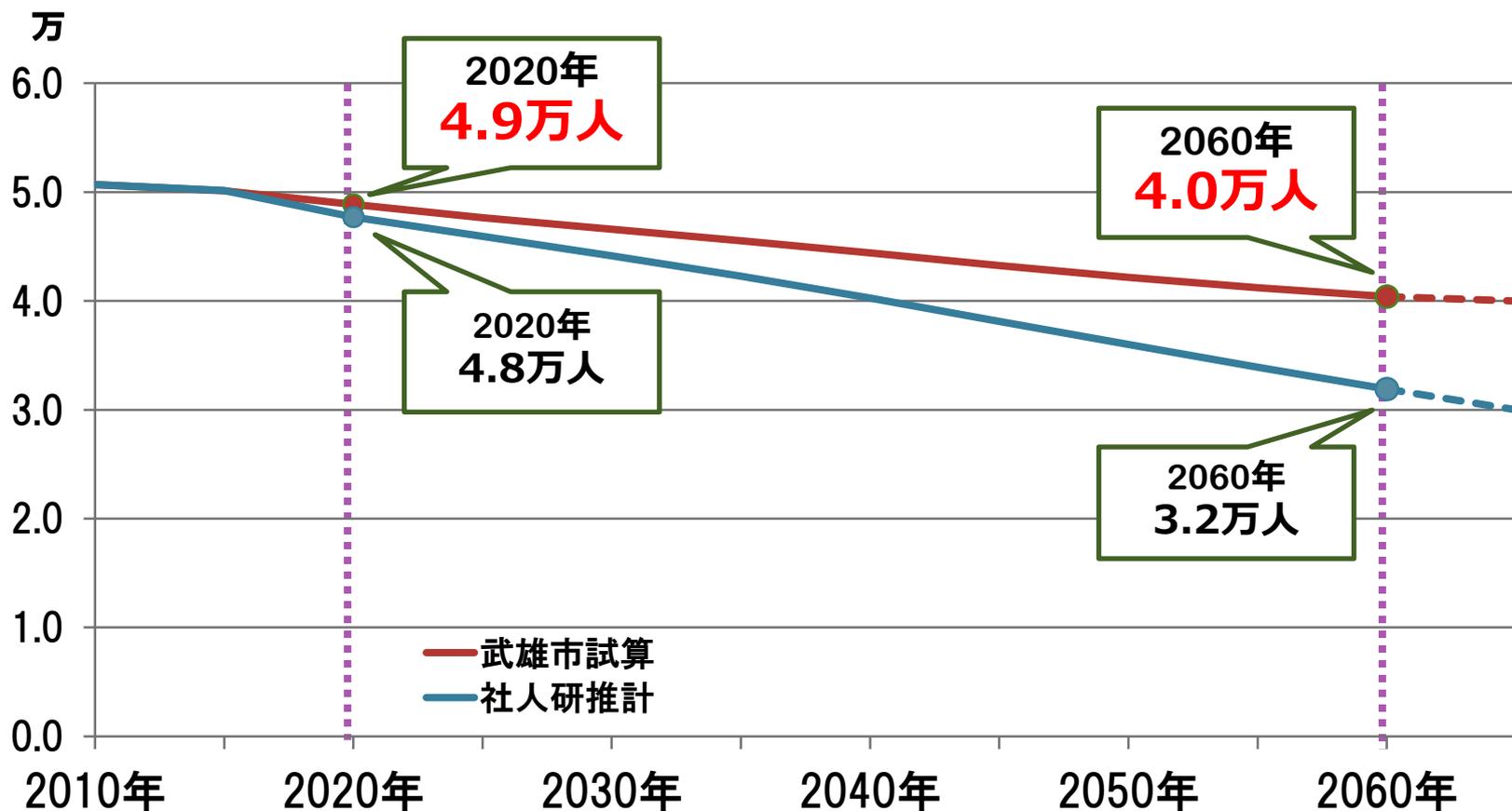
自然増減影響度が「3」、「4」、「5」と上がるにつれて、出生率を上昇させる施策に取り組むことが、人口減少度合いを抑える上でより効果的である。

社会増減影響度が「3」、「4」、「5」と上がるにつれて、人口の社会増をもたらす施策に取り組むことが、人口減少度合いを抑える上でより効果的である。

(出典) 内閣府地方創生本部提供資料を基に佐賀県作成

6. 将来人口の目標

2060年人口4万人の維持を目指し、**ずっと暮らせるまちへ**



(出典)

2020年以降は国提供データ（パターン1 国立社会保障・人口問題研究所推計準拠）から計上

※パターン1：全国の移動率が、今後一定程度縮小すると仮定した推計（社人研推計準拠）

（武雄市試算）

内閣官房まち・ひと・しごと創生本部提供資料を基に武雄市試算

※合計特殊出生率が2020年に1.80、2025年に1.90、2030年に2.00、2035年に2.07（人口置換水準）となると仮定し、人口移動の純移動率は2020年までは社人研の人口推計の1/2、2035年までは1/4、それ以降はゼロに収束した場合として推計している。

☆